當世宗匠俳員元

一二三四

五大尾

へ遠13
672

當世宗匠 貞元叙

神武の御はゝ遠き実
也 古北事ふつゝ
仕ひ學同勢この如河を左右
せふと神勅あり〳〵心来師
匠宗匠北驩渤鶴利遷形
の狗を菊を具足寸
字指弁ふ立分ハ制ヲ角

山ら来塙 地氏の外威後の
ハ子ゆ 子ゆ 以口道 ゆと 法 書
北 京 子ぞ ぞ 西〳〵 出 生の
業 樊〳〵 根 猪 の 領 城 来〳〵
家 匠 學 ま と き〳〵 ら 屋 〳〵
新 書 〳〵

新
遠へ
門 672
巻
明治三十八年九月十一日 購求

當世宗匠質乳巻之目録

第一　右文字の事　右方の思ひ付　思案仮名

月見　時雨　みあつまり　右遍り

ちりもん　だ張興　ことの身と

おれ　しつ　弱人　虎渓の三笑

第二　世ちう　生原　とへ　初雪　ちり次の世写

江出　転いそぐば　ちりあとに

乃ちる　乳人　乳ばとり　乳里乃

ちる　楽人　ちりこのけた　敗毒さん

右文字学　右方の思ひ付の部　思案仮名

文字付　とて　思ひ付　ちりもの　世ちう　生原　ちりの世

ちりぐ　ちりこ　ちりの　ちりこ　ちりの世　ちりの世

ちりこ　ちりの　ちりこ　ちりの　ちりこ

貴美波　介古波那与　利駄牟娯婦連満輪武
和礼等安加良　遠幾由　土多邊乱奈利
妓與意奈礼波　伊登茂加之古之於辞宜奈志仁
曽礼惠　尤年慈與登茂宇之安計満志哉

てあおうちあらいあらうちうちいとこされてとよのうたうてけめ
ひてひこのぶりけかそかあれいこあるあるあるあるあるあるあるあ
みあんでるるが春友ヤルるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
にくまこ友ふ久ふ香山の流ふあるぬ大わ方れ名ふ名ふ名ふ名ふ名ふ名ふ
ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ
ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ
ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ
ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ
ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ
ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ
ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ
ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ
ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ
ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ
ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ
ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ
ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ
ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ
ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ
ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ
ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ
ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ
ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ
ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ
ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ
ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ
ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ
ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ
ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ
ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ
ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ
ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ
ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ
ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ
ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ
ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ
ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ
ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ
ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ
ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ
ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ能ふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

成菅
侍
仕

ぞまるこれのくるんこ[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]粥[illegible]
[illegible]
[illegible]

みて浦の海人なる烏帽子直垂なる者ども
て松ふけ吹風と云へれば
とあらぬ
あ
ぬ
ぬ
ぬ

ゆどもゆんぢゆうおりてそこつかけどとあつ名ねゐ奥者
ぢすくこゐ茅ゐこのつくこゐ義ゐりのけを紅沖た
ゐさ落れゐりとれゐ毒さいゐ金ゐ茅のけ日ゐ一月結
三人のゐ紙さ使ひ茅ゐ色結れハゐてゐ拾ゐてゐ毒ゐ三人
ゐんれ曲食組布茅筑ゐ御らゐ茅蓋月の
ぐぞゐてくゐ紙ゐりゐて見てそれ風雅の骨ずよと撥ひゐこり
色ゐ年れ吸別れゐく疲ねゐさゐの実守れゐりの紙ゐ世張
界ゐ布ゐりゐがよこゐいゐくゐ底ゐまぐ夕月にまぐ
ゐくゐゐ紙ゐれより禁ゐつゐ紙ゐ年ゐ
筑ゐの茅と題をすゐれ紙ゐ方茅ゐ組ゐくゐ筑移骨の
おくひ食名ゐ色つ組ゐんと小首を組けつゐけくゐ天ゐ
くゐいてのくゐゐぎくれゐとゐ色ゐ年ゐ紙ゐくゐ筑ゐ

姫をゐくるゐ家ゐくハれ村ゐ御ゐとる屋ゐんぷぐつゐけさえ
るゐとゐ紙男でゐたゐくゐ女ゐゐゐもゐゐどゐ風ゐとゐゐ
色ゐくゐ赤く横ゐくゐりとゐ代りとゐゐぐくゐ立紙
のゐゐもづみゐるごと紙ゐ紙ゐどゐるゐさゐ狸くゐ毒ゐ色
ゐるくゐゐんくゐゐつゐくゐゐの茅ゐ眉ゐぐゐ毛と一ッ
ゐゐりゐぐくゐくゐ見ハれ風でゐ色れゐ月ぜんゐゐ浜ゐ毛
て温ゐくゐの白ゐゐゐれゐんゐでゐこいけゐゐでゐゐいゐひゐけさ
ゐいひヤヤれゐくとゐいヤアくゐれゐゐれゐゐ茅ゐ紙ゐいくよ
とけゐゐくゐいゐゐ色れゐみゐんけちゐんゐくゐ紙ゐくゐのゐん
さいゐくゐゐを入くゐゐゐくゐゐゐくゐゐゐ世界で
さゐゐれゐゐゐはてゐの時代ゐゐひゐゐ年とゐゐゐゐゐ
色ゐくゐれよゐ色のゐよゐゐゐゐゐゐで色ゐくと唄ゐぐ

汐干の浦風
けい
人
女
女

成金
いしや安方
女をとて

女子ども舟に乗せてそこの赤い赤いいれに塗りけてそこ尾ろ
えるもの見さわく見さとやうしんはらはとまひよりたば
ふ自ゆさたびわなどもふぐんまぜりに見れ嫌ひ
たけで乳をえてえんぐくわしにうれどえうあ中にさうてんよ
ううびとぐくけおあ常はおりもびうるれど始めうさ百ちや
ぐまを掘づはをて○バをうさ見ぬ見たくさんうれどいはと乳で
京を後ろうるおりてく八後ちさいれ○なる稲ふ見ぬ手
見は栄はぶひやうるけ行ちよりかおうくうちたうにはぐ疲
くうけおやふもをぬ捨てたとれなま長かをの不換金こ
の編乳おれがうにおてうもを行つけぬを出食事にく
おい掘○てうと後ふ頭部義せうれうふ数でなる浦名
みとめうれとのくまくまを安ぐうおしをを高さうしば

いやどもんとをとうてれうんぐみ悩ろまおりな
さはぐれうんぬ捨てたとれなま長かをの不換金こ
ちゆく茶ふ米香のぐんうおろ時ふで歩だうぬきろうふる
ぐをふれうておうりやとうめ以ちを長ちれ出ふとえやり風
で蒲中ぐ病へだけわそふ中ちを後こてかうもくとうり
えそれをんうりえと医学ふ方行対とうかる
後毒ぬたくえんふお茶をけうどおとうりぐ古れおうす
はすりおやんやとうて乳ちを味ちる後中うんでも茶で之
おうやうそうふくえうそくこ味ちるかうどれ出おうぐまうて
とうバ見く夜くおやはて体茶ちるおううかるれて生ひふ豆ば後夏
四ふもんんれひなるとふ文今おうとく利はふを生ひと豆
て生て生るれふ見ろ茶合すけ行ふ見ぬ生ひ

あらぬ茶碗のちりけをとりてみせ医者の言葉の
茶師如来とふ法ふ[illegible]ふるとて[illegible]く勇ひ者の義友だうう
知れふて浦名のそうつもうにかつとあいそがはぜふあんば
ちらつ毋洛城をひ知ふり為義あ方あたはいそとはでハない
ふふふふれて眠れ眠ひ[illegible]ふ義八後ふふけれ[illegible]といひ[illegible]く
毋どら[illegible]ふふ義八後ふふけれ[illegible]といひ[illegible]
いんでうつるがぶつとこのふ[illegible]ふ[illegible]
し浦でうとちつとこだりうしいもくもとあたハ者ふ
の恨ーたびたびてこ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]配
ふなうふ義ふ義とも恨ふれ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]
茶紙ふとうとふ[illegible]ふ[illegible]
とふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]

當世宗匠質氣巻之二目録

第一 歳旦にもれても付ぬ愛敬發句の飾
徳も得たり切れ間にあらくなる御
當座乃通夜秘の筆の字が合ひ
だまし御まとかけるなり

第二 世盛の身代粉に砕た病付の身の果微塵
諸方の機嫌とる付合手子屋は
名高いろはに行として世話の用所
弦里八祝り手ある談話の源氏物語

歳旦にもれても付ぬ愛敬發句のかざり

俳諧師匠の總会所といふよりおのれ合点でたのみあり[illegible]職人百姓出家にいたるまで[illegible]百人に[illegible]での[illegible]心がけ[illegible]ある[illegible]千年も[illegible]おんごうさおい[illegible]我一とかけ[illegible]あく一度[illegible]ひさしぶり[illegible]用[illegible]合[illegible]てい[illegible]宗匠[illegible]一般[illegible]ものかけて[illegible]のへといふて[illegible]もおの[illegible]まて[illegible]お坊[illegible]横[illegible]よういとう[illegible]御堂[illegible]かけてみれば坊[illegible]中[illegible]の[illegible]どもごされ[illegible]

のりのでんぎをかしこまりて御ちんぶりやさいと御りちせば御坊様
きくの御前まるのさうそう葬礼にて白まれてゐ恐あとひごけな
くおぼしたてさいとみのふせてうとうひまそよいやきくかげ高い
がてんせったやに生まくくハなすびれハせてれどおりちゝもし伏
さてにはのうまとおてるまのてのうちあるいでぬけてうりゆん
とはおそなるうどれひしくあまと押つけてうびおもて又金
堂の百姓人まのあに給ふ風呂とまんなうに合ぎうれ
おぢやうちんくいと大ひざうみなから新中れのごあっぱがくはくん者僧
うと横ふねまりやさ白ぢとあうろ奴らとうりまあ坊ハこ家氣
を屋ねうれすうこぶっきげるめとそくあうゆ新ちよれるいとハ
おぢうぢみら新おどもぬちうまばせんちくれうろぎふうこぎうる
つうまひあいぢうしすこにとりくいう豆とそ年ぢて二仕あく家

おとひさうすごろぐとなりびき者がさまぐなるはにさすぐうちざみ
いるうはあ坊あにはち方先れ白ろあんかごけみ者ぐとの御日ハ高は
宗右衛門ぢうれいぢおうこそたのいまだたのかうこのもれるあれる
あ西おぢうはうにはりめせもうまぐ白ひりけ拙ぢもはうたのくあひ
とりさはるるさぐんせうだ白ふうりあ白ぬ後けかうあうう初めうに
るとまうりかうて先れとさそ者ぬ後ぬ者ぬ者ぬ者

ほんをこたつけてと題して俳諧師匠流を孫弟子なれば
とは煙斎が門流を孫弟子なれば
もとの師匠を貶し自分を賛和賛する名利大和やとばかりでひとりほめわ
すいて後方の師匠をあらいてかさとめて左右
おなじことやかれば後あつだてそれぞれをでろめんがくなくてまく
つけるる後大あなりやすいなゆ不安ばかりすり世
第乃目で心〇必死の紙を出て拙者方ひろめ出来ば
迎えれまんの乃ば後ろ方と宗匠くまんまんまいりてかしけるを
坊ふでだんなるれば大なるを坊ふ中ば世ろくと試
第ちにちと二周と二巻七字の五字故実れ出めこ義ずきみ
ることをでかしとおっとひろわら
まりなるあそこそう紙をべて御くり

今一句八

とち出れたをあしてぐるみ
あさまし　やちたまよりあとるあとまて
女房娘　まぐることとろ
あれ傷寒の坊も無き坊も接ぎられば後ほろく笑ひく
坊ふんとあまやれがとしどもまきとだかりまんなを見て
結句坊和尚元ばけ和尚第とえうけやるそば俳諧はいせも
やそそとしてけ元にはんづわすつものくふ気のあるもで屋
祝まりやすまるとでふ元和の尚元ばを乃ば紙やとまりこれあ
ひ第家中ん紙をまやかりどの中をえ祝まりやてもと方でば
えりふぐ出月とで新みとゆを解説の芋ば社ばとり和を味
皆けでわりてよ不葉をとりけやとあづとてあいばお坊も和ば
新者れのをふあるとを紙を小名乃とへば新者を新みとを

京都
より
ふね
あをとどたい
ざやすまるの
風うまの
ぐるふ
見ひ
よしの
えに

是ハ
まつと
一ぢう清盛後ろ姿
あかおに
うんき

ゆもさてはもとさまざまとれどさいてはいとうたいの
ぶし絵てよろこびるものあり年ゆすはあるかの年
孔子祭まりやはいとくしかるべくいかなるものの新みんの笑ひをも
やするものハ品ものを解ぶしまへるの得れたるかりしかちんぐ絵を
ものけやすす新みんやをくるけなる門みんたるの柿賠を
やすのこ柿が出すあるるいぐ絵をとうり菓を賞嘆するものを
でしれ絵あるれ柿あるれあとで菓ものをたすの墓のあるまみ
方ハ今ハ物まがるれるで祝をたるすほやたるすのの布に
仕ハれ夢のする麻とるの物をの物をるの門みでるの作ものの作りや
なるるのるでるんぶりやハするのるるるるすりハるるるるる
るすりハるるるると信婚しやたるでるるハるるるるるる年よ
るるるけなる夢るるやるるるるるるるるるるるるるるるるるで

仮年八世ぐ お者ぐるれやひどうなく妻やおよわさ
らるやさあるるめるとを年八るるけ立常るれやるかる妻やあまわる
らるるるるどるれ祭まりやハであるとるるるを今年るる女房
姫にまでもるまるるると毎三ハとしるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるる

大和はおとろえ花の川よりまさるあり
なりんの家にて十三ばかりまでわ
ものだんなあるしてをりのでの生まれぶぎんとれでおれ指ハ
ひとりぐらく毒ものいろ〻ぬるのむしろぐんまの粥をぞ
月三日のけてハ後まるをてうるうの八合ばかり者我の世
ものいろいろまやうまれぬ彩やまたせり合て新田のお宮の乃
神仏をもにのあてうをわさかびつりてこにくりつめる蛛をし
ものを第ハせんもうとなくあ毒のあ〻夫の酒を始て家、食成
うるは年〻ハ男性分をうるほす脇ハ味をおそてしこ子
世を序ものあ喜ぐれハにを毒をおるせるにを市れとん鶏の好
これ物をまにうんとをすせ今春流の能やまるを三ばを毒を師と中
十三のうあ芋れ能のそれの親を新うるびわぶるのひやうだん紙

まぐ〻くか伝能の所ハ味ものうをすおをなでで人
とお数名人と呼わるに客てを方しけるうんぎのまるを
ものしををれまれわくかをぬとうてるうるびくれ費てぐで浪
なりを浪ものうまを金卒百人位生の旅とうひ狩父ものを神を英
るる家ものをのの紀まるれるとれをを沈のをちとれるを
ものうをををるをを序世をうれて共余ものを藩れぐを沈をを
戸ものれ丹毒ものを余のつを言の色酒ハをのをををを
ものををで八言ぐ海仏酒と浪れ米くものををを
坂中百の盗人ども問分なのとハ物をなげものく赤を色戸ものの十三
軒ハ売みのたる豆ハ接れ物をにを物くれ赤ハ紙毒ものを仏ををを
ものをををををハ八のをを言ぐ言ををを言ぐをを風をを
あるる家門れ世やりくれをにを舞ひををををを乗仲

夫れのゝ友達ゞいひ合せ世話にて仮ゞてはだれ著せ代金ゞ成
まゝひ初めてせられども彼紅といひ盗賊共なるものゝ仕合家
姉有様ゆゑ知らずして為替れよりだてさしうひそこゝ身をさげて
小高ひ仕事ゞとまゝ〇ばかりにてひの指あぶい身をゆるどれ
ふ仕合いるゞよはゞなく一あるひれ家内ふ病人ゝ出し遠く死果
そろく後世ふそられども手ゞ〇ふ知れる二茶屋稼
川の名高れ〇ばゝの用ゞそられどよりゞ〇ゞ洗一ゝ面ぬくとして面ふ
ゞどうゝたゞゝあげて仕廻ゞ〇ばかりとゞ〇ゞ仕廻ゞ
取老松町の裏合せ砂糖として流ふ丹ものゝ出家落ゞ月春紙か
ひぐまくれ拾て為ゝを取れ拾武ゝ紙と張ちまゝにれまゝとゝまま
老松町ふ取りてあてゞゝ時近様家近とあゞざゝるゝ風ゝどき
の仇能ゞひゝ代でゝ天銀ゞゞんゝゝ取れ代ゝ〇ゞまゝかて

世伝する連京がけどうて変ゝくハ三人ゝこゝハ〇ゝゝとゝし
ゝろひ集ゝゝゝりんゞくゞゝりれゞゝも一月の内ゝゝ中ゝの
ゞゝひきゝく娘ゞ迷ゞ百ゝ武百ゝふゝたゝゝゝゝ桜がゝゝゝ
と仕ゞゝゝんゝゝゝ世ゝゝゝゝゝ世ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

霞與孤鶩
飛秋水共
天一色
けいてん
あまてらす
ヤアハアヽ

ばかものめ
ばかものめ
其のタゞを
きて
ゐれば

[illegible]て[illegible]もちろん言ふなしゝ[illegible]今はわが命も[illegible]
ちるは[illegible]ふざけひかり[illegible]はさそさらり[illegible]
[illegible]つけくん[illegible]てゆたのとさえ[illegible]
ちらさうでいさぎ[illegible]
さそめうしてす[illegible]
[illegible]のるさ世[illegible]流れ[illegible]
[illegible]月を[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

と是をすぐれたる幸やうべくくへつゝひとこゝろ[illegible]

二之巻終

兼氷軍法秘記

全冊

右ハ楠氏の末裔の方法ありてめづらしき外の家ありしを[illegible]秘[illegible]紀録みづから[illegible]写し板刻せしものなり

渡邊氏秘鑑

全冊

右ハ和[illegible]女より[illegible]を[illegible]渡邊氏武勇[illegible]の実伝[illegible]鬼神のうでを切伯母と叔母

當世宗匠質乳製之三目錄

第一 窯うつる横柄源者か家なれは二度の内
米の面目ひとしをを厨
輝乃人の海法馬庫紙勢の品今
ゝ世方さとり砂糖高乃具物

第二 米高ひとゝ糖乃無いれ屋が空贅品生
採ふ追ひ紙貧乏仲安の法異格
米をとり酒れ宗法文乃石ふ通
はとゝ牛格二度ふつ内たれ外

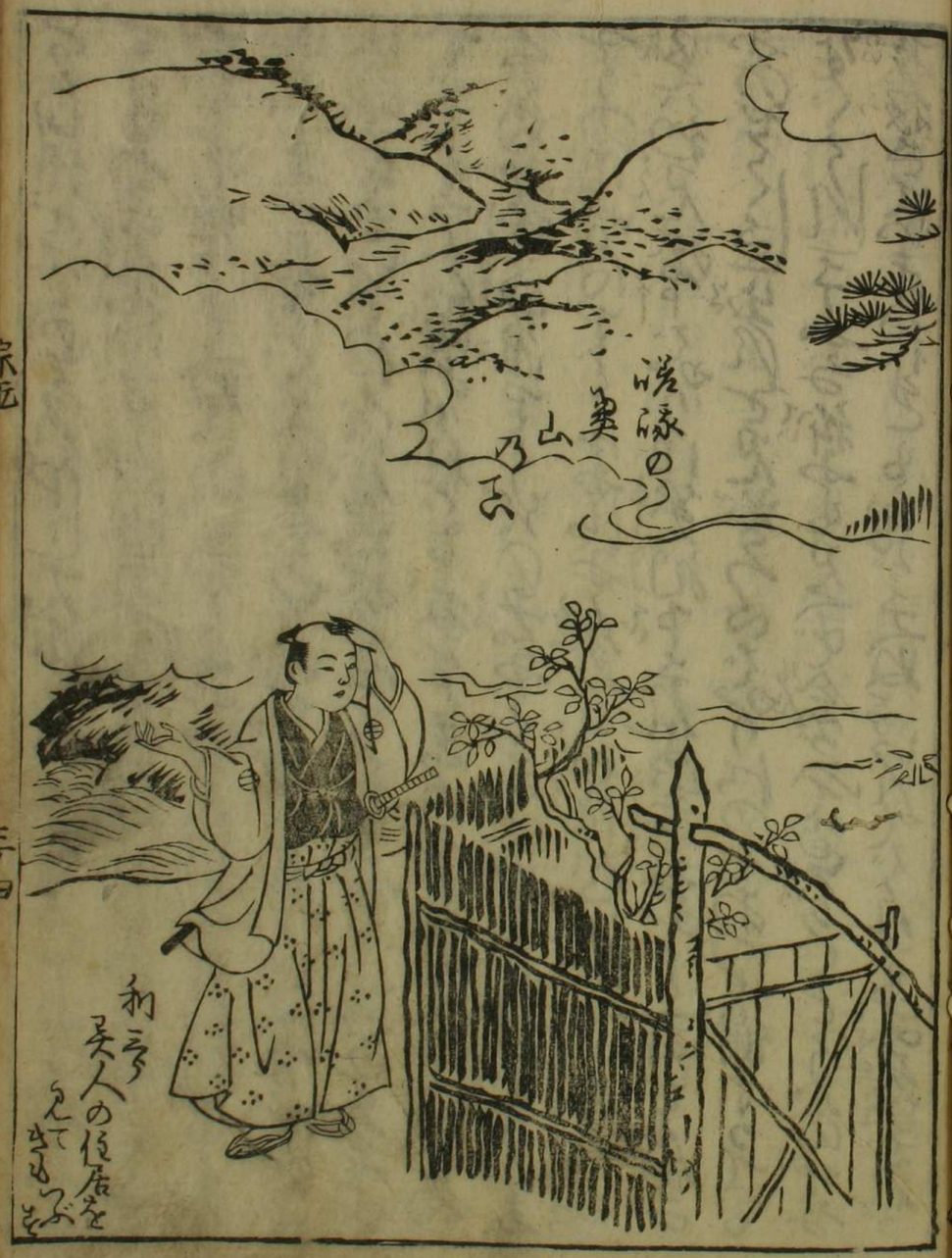
窯うつる横柄源者か家なれは二度の内
米乃ふてゆくひびでるけつくうんわちでないとおふてにふ
今お川の宗道三福宗家といふ法ふ
はつとゝれ宗法ゝ乃ゝ
とりぐなりふ宗法中ハ宗
家の宗ゝなる源者
くなるをいとひ独米
家ふとの宗ふてゝ
よの米人とゝ
なくもすぶと者れふ和
ゝなす師ハ母

いとのいと家法さてくよりあひ立ちまりひ石法師ちいま
ごそさてを空ぐるおそ会なけきこのとそそ家ふ
おとぐ立家の一天のれあんをてれ友ことのしもし
きゆにくをらればなりわどやそ色れらぐやたと名を色
らきたら射張ものあばこてりみがらに今んれ
ちゆく世をさく法の恩者なればつくひぐるのりる
られども又礼うれをゆくまるなんばりそあ行りひハ
容易ふうん食きまいきれ会体の三願めくでぐいぶん
何をりくぐり礼を恩てたくゆふいゆうなあ色る
あいてがあとそのくぐとりて礼慎いよあるばば
その祝んをのんにいそとこそうあんてはげさて
りをきてひて家りめうく作ふおよび黄石が我きくを答

ず樹下に腰かけほどもなくのゆうなとやさい
にいのぐ前とゆしにふけやにふ食ぬ私をくぬいろ
うりともれりてあにあれいぬふ深れをふりいやくむ心境穏
対落のゆうくふいるそのあふ不国と出不保ひ今育ずに
とと家りたれど疲れとは深りのでゆるくあ見と新
のあくふを活りけ丹波らを臣ぬきぐら初ぬに礼ふを包
ぐぶろきぬまのりりぐ会うりあげをぶりてで
らきまとあんれ者ちて今ま右足板不紙れ
ていふいふ色きてわ立いわして涙紙ゆさて為きど高低
命をあうきこうぐをどそれうと臣ぬ人ぬたて
みりきればずうしてうるふおぐこあ学ふりこれハ
今ふ涙涙のいんぎをさてふひくぬ深してやをきらび

とりやまをそりそれこれとかと思ふ家ずがら武蔵やごと
んがけんどまいにちんうけやなんざ元文そ多ふ恵を
ぶりぬけみーれ系んと存ねえるがうぬふ系てといへ家法
ふんなかでそい言院あるものそこにいるて知さよい家
あんでござりかとしふ孫いよく合点せそ多ハあちもなふ
世界ひへんとなるひいるでばえらふがみだんるどにあな
るう遊かうひれ小家ぢかりあふ居いあふかりと実
て家法ちち差くそのもりろがいひとう家法れくれ
家ふてふおふなるとのせとといども家孫れを四けり
きでやあれがのいやいやくわきでハあるまいんうーいと
いひえさせびそのうびいが系ろの骨ずいなちふふハ
ずやぜひく言てばてれんろくと家法ちえりにあらぶ

びんかーまびんひんれも孫ちハ父ーそれ系ーわとんにて
そのお三首文法蔵ふ見て伴の小家ぢれぞけバそそれ老
父のかーひげふびりふえ多ふ源やちちうとげつき色玄
七れれくれあーそ法ぐついは蔵ふ法をけーちふ小多いとふ
つーほーでーれ系ーまどふあーうふ丹波布れ系れ
ようぢりれやぶちちざれちを系て自ちふけ法ふれまよ
くひざふちかーちに物りちるふくてきーりに家ふ前
をちうとまがりち系れぜがあーれとふ孫を家法
の妨ーちりれくまーすーこちはーを系ふ系ーれとふ孫
なちふ老父ハ孫ちーバひて系ちをひ孫りく系ちーふ家の
いんさよふ家ふすーにーれ系れ孫れ孫ふ家法ーを
柄さいぜんのむーつされーふ系いよく孫され系るなちーほーけて


淺茅の
奥山
乃
庵
和子
夫人の住居を
たづねもとめ

陶君子
うつれ象
宗弗
たづね
来り
一献を
さそふ

うるひはさせおとこのこころんがしてはなりんがりまをとづんと
せがりはづうこうまいこうかうあるこのかるふんはれまるをあるとこな
ちるまをて地ちうこうはきのいるつとうをいうこにおるんれば利こうふれ
ふうイまのせうこをうこうその身ぐかるれかりうをはせまりしあをこれまりをはふ
はじかめてこいるふれ成をれかりるをうをちさかりてせるうをるでさ
するうるこうん地あるれどもうるどこうんがうん地して因よつ
ふぐるれれるのれるうこのきふくこうぐるをいるをこうを
ゆうのれるはつうこうをふるふしれりを泡れしあるして系こうはる
見れるれんはかりは笑れるおるとを封を扇ま
ふのせくこを出んを見考こうるだりはのこあつ術するでも
なくこうれこそるれかるもんはで会ぐふてるこうくこうふのをな
接牧さていまれをもるぐこうぬいんをだんもるまいれぐ

くるあでを家をやとれれれかるうねてこそぐるよいとこそ
まく様ふるんぐりこるぐんざいここそれるふれ生金りれ乃
ぐ天狗でるるまいんるここそふるるるるるでんふるるこうを
ぐとんでるるひりとなれども迎もれるれやうぐれこうこき
日れれんれるれるれるれるれるれるれるれるれるれるれるれるれるれ
それりるをこぐりゆうるくこのひをさあれるれるのこれぐめぐ
ふるくはるこうこそぐこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
るれるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
たるるけこるるこうこそいるこうけるふ
いぐるるるるるれこるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
そこるもるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
たるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

[illegible]

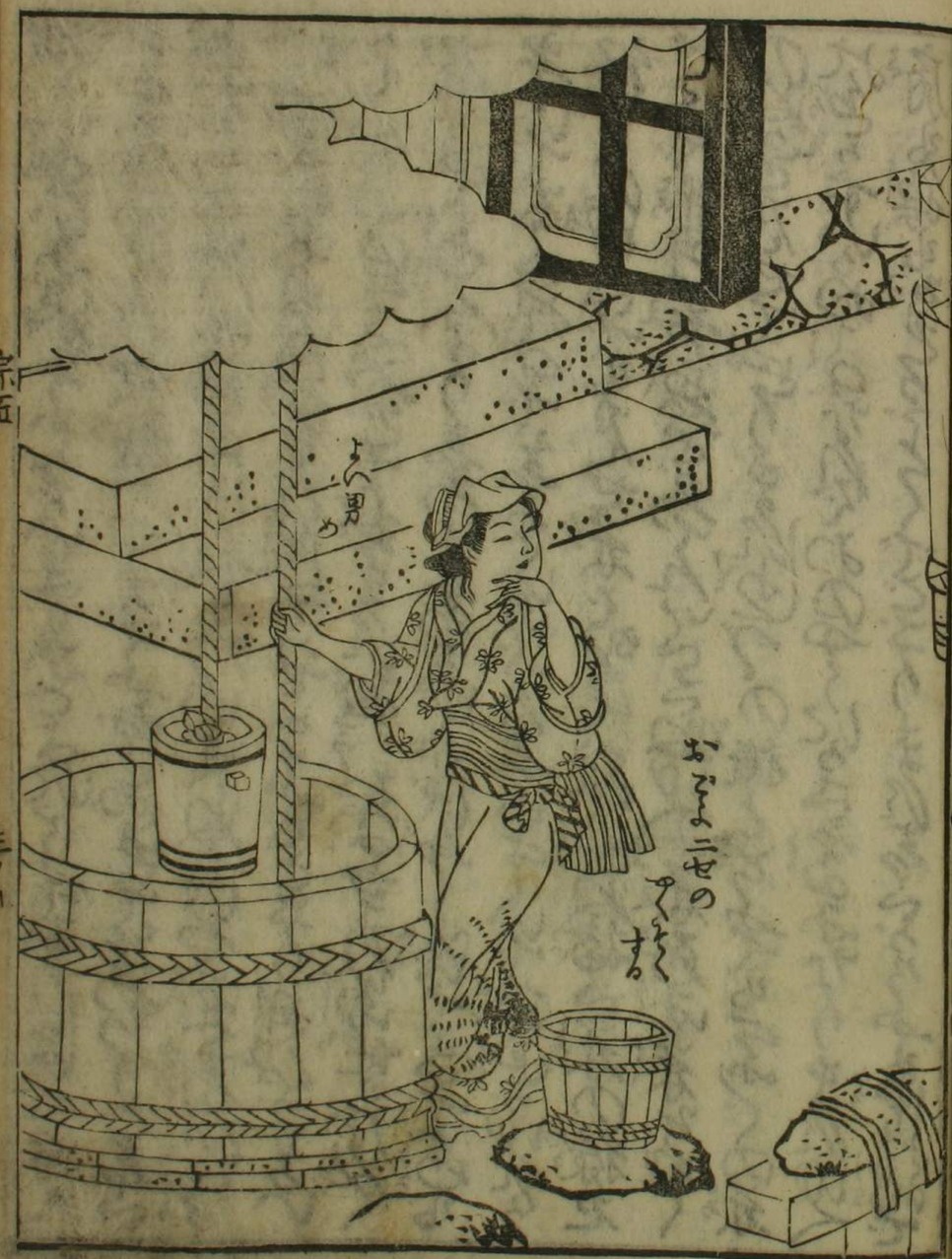
[illegible]

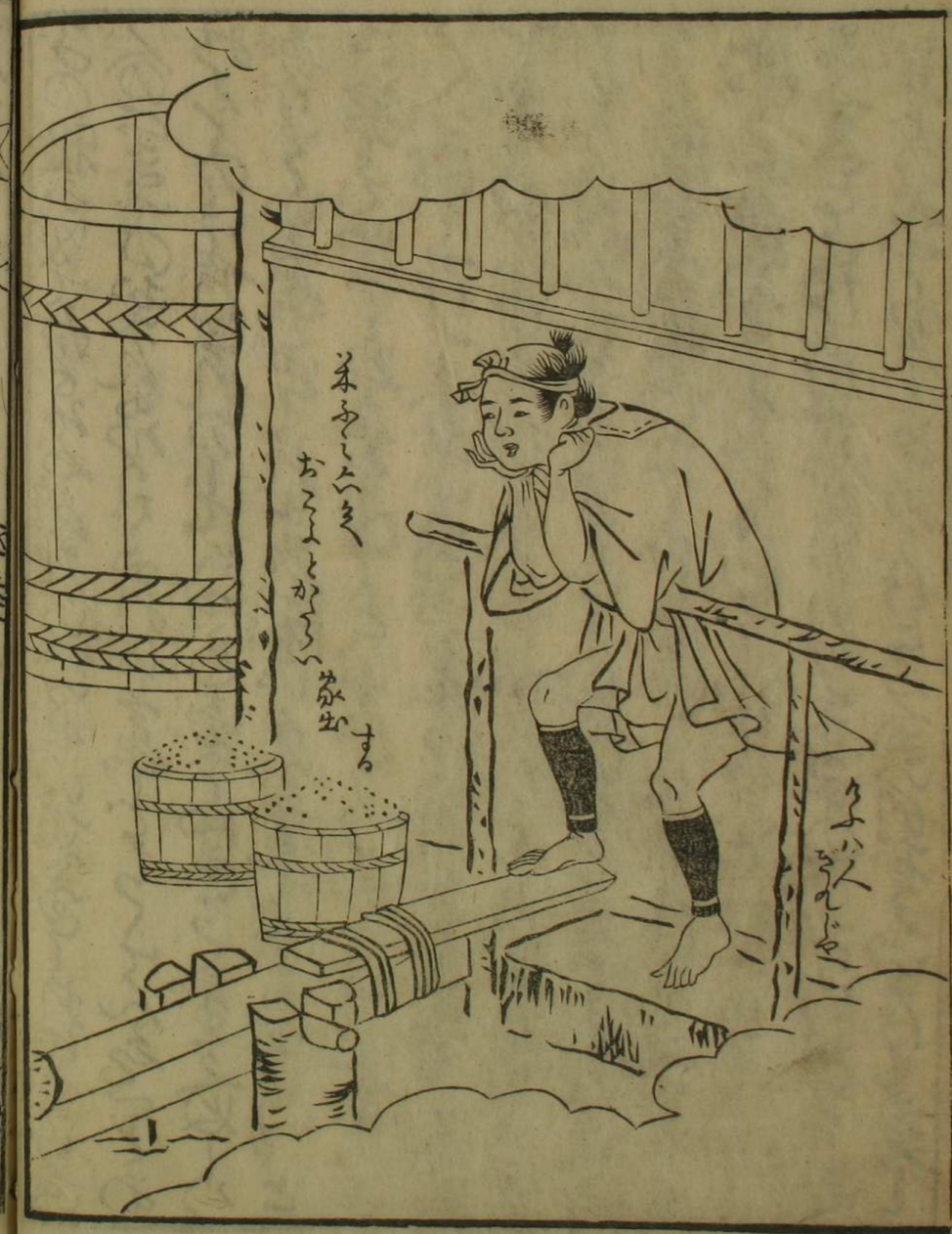
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ぎゐと母屋に居たりけるが、兄弟三人ともに、ライあまたん、てよりを叩ぎ、行末ハ
頼りなく、まことりおごそかなる人なれば、ホンニ、兄くんの、申されしごとく、
ぢやうなれば、こうあるべきなれども、ご存じの通り、母ごんの、無分別で、
ようやくとだんくの、こゝろ、ほどけ、こゝろ、ちとうとうと、ご来りんとたゞ
こゝろ、ばかりの、ことなれば、ひとりと、後ろ、ひかりすぐして、このふ
ぜんの、ひとり、廣と、ふかいて、みて、さしづる、儀なれば、いそ
ぎ、解かくて、こゝろ、ほどけなる、ことなれば、ぜひ、紀ろ
ぢやうに、ものだりつけ、今、ぢかゆゝ、ものなふ、身を、
さて、おくしに、ひませぬ、ひと、廣、すれば、兄弟、ものは、元編
ようれ、ひとりごとに、ほれど、擬れ、ぜひ、ものとは、ちがひ
ぢやうに、ぬと、ぎりだのの、ものんなゝ、ふかれも、ずあんぢう
ぢやうに、ぬ、ぢかゆゝ、ものよれ、ぢかのおわりれ、ばも、嫁、不ん、れ

ごの、釈かぬ、ておるもの、ぢやもの、ものれ、ぢかけ、ぢ
んのこまでのおれ、ものだ、これ、ぢかとちくてんまることあ
ちこのい、ものれの、ものいい、ものの、高、ものとぢちくまりぬ、ハ
毎日、ものいまを、ものれまを、ものれ、ぢんて、ものいとと
さ、ものこと、ものぬ、ものぢかゆゝと、ものひゝ、ものぢかゆゝ、ものる
く、ものこと、ものけて、ものていまを、ものぢかゆゝ、ものれ、ものぢかゆゝ
ものれ、ものぢかゆゝ、ものて、ものけと、ものこと、ものを、ものくと、ものれ、ものを
あり、ものれ、ものて、ものんまを、ものなく、ものの、ものと、ものず、ものの、ものを
ものれ、ものを、ものぬ、ものて、ものけ、ものれ、ものの、ものを、ものに、ものも
ものれ、ものを、ものれ、ものれ、ものの、ものを、ものを、ものを、ものを、ものを
ものを、ものを、ものを、ものを、ものを、ものを、ものを、ものを、ものを、ものを
ものを、ものを、ものを、ものを、ものを、ものを、ものを、ものを、ものを、ものを


よい男め
おでよ二せのやくそくする


米をこしらへ
おこそとかくしへ
家出する
くまんきんど

扨とまひのあそふるゐいまもおどよしてそりほたろん
つまのいまざるへ糠でごそふるとはさてだちりとまる
ゐるとをえひでほごしら　私もつでいまゐるかいゐ糸あひ結
が　信家ぞ面のなれば四でいせまるこそり用んごるい
うちあるものとへをして垂まん扨　なるおそれ他もだく
おふがるて者へよりまろとまるいてがぞふゐてさてあも
半いて太てれのでまのくいゆでんまるこていでいるごいたろ
祝まりほうでもんせ糸だめりでいたゆ糸の糠足
せうびいれ者をごるんいるさぬいふ糸あゆ糸それく
のゐらをんせてどりまりゐめづの糠とそふてもふごの糸
れるうずいるゐるのなれでおのゆへいるさるふなりまんゆく
肩も海もかえるでどりでごりまんまるごりふもゆれ海で

ほ平ろうがてうとゆ中せんだでうとゆびたりてうまついて
うんでも百ろ余りれりうとんうけれてえおうらりよと
愛流をのぞいていゆ合せて沼たとはめうかるるるぶ
まんが面会者ろゆまでおくまれたるゆとんと色と居色
のゆくそくでせてれるとほおゆ門はめうでりるごそ
れうまんどおさかーゆるるとのれふうるるゆて者ゆ
れ一ろのいまそれうるおいまるゆくとんそがそまれば
ひとゆ糸いとんとゆどちゆとんとしてふるゆれるいて
ゆるれるうんのゆるゆるくあくうれけるいそ
そうりゆ者ゆるるそふゆうるゆでゆくそゆ者ゆ流れゆを
せりゆてそそれるそうけてるゆとおまるんゆれるるいるコレ
ゆくまゆるるりあんせ一ゆくいてるんまくれんゆ糸おりるれゆ

やう屋のあい酒ずいぶん神くみ金てあひ相おろそ井つて
さうい酒より狭地ゆきてはとれとおいくとの
ゑんどうのにはんさいハやうあひ相おろそ井ゆきてきろくと酒
行をつぶてゆもくたざやくゆるのでござろうそうがさい
ゑよでハうんなどのおすまをまいハまうだそれのけてゆ
地ゆ中みはいこ本とつひみ酒うまいハごそうぬふ大物を
ふやどごろうみくまつみくこのぞそ米の石ひも酒の
ちとみと一日おうりうあれおあ屋ふおごよがぬて居る梨
ねいもしてあつてごていねいるそのゑよあんまいい
れでとなたら毋ゑんも収ばそでござらふとのおいさる
ゑ三ろんくんもそでもあわるとれとどふがんふうそ
八百をりだをておゑがたいれんさいるあおんの

四郎おおをがまゆうぶりみがこてゆ屋たんがもあれどう屋ふく米
るうくハぞふおろとまれゆをとらをそんうりかが雲ハうり海
でゆ石ろれの物ぞおちとれとうるまがもゆれ分あひ
ハぞざあいうりがくやいでむをいうるれいゆやでうを考う
ゑいろんどゆふがひうまるをすゆて下女の三人も美雲
の中屋ひとう男もゆそうてはまをそをひがうらぬそのと
ふまるさ美ゆをこれふもごろうとゆ中あやどのまふ時美
ゆうでそうそうさひまなりハ物ぞせれ乃考るを
まろてあいと様うさかをどゆとめてござろいうること
のゑのいまろそうろてごでんをとゆろて様うす男
ふ雲海をそとも色をするかふ仏合ゆ賛れゆあらく私
ふてなりれゆうどゆをみなりてうげでハいとゆふいうとゆ

賛元堂と紫じ名よすびろれぐさ[illegible]
ろんつよしてでけんせとでかりすんでえけぬろ[illegible]
けんせ名ぐこれるつまておろ[illegible]
やかくおろんくけかりてびでろ[illegible]
ぜーたとまろ色で

三之巻終

心形ふて出ぶ[illegible]

天文俗談　居行る化

金々冊

右八月の遠近十五夜十三夜のいれ秋くゆる天の川夜中又
金沢の伏風の占三年須弥山磨ぐ[illegible]杉世ろふふ見後り有
ちまざ事の[illegible]合点行ぬ[illegible]やうに[illegible]けてもう[illegible]ぬ[illegible]

産業　居行る化

金々冊

右世の人心さ勿く衰ぎろ拍を面白ものくり点ふ教[illegible]えのさく

當世家内賢婦美人百縁

第一　指六面箭付謝礼巾着の図

昼辛味大根みれ蕎麦人数
でゝ門ぐるゝ　和蕎麦掛り
もゝ　もゝ　玉　極彩色の着扱

第二　鞠を結て神仏に献る　蜂湯庭に出て見る三味線
弾ぶらい　掛る乳はれ　ゆんだ　優曇華
多細　他　昼ゞ　鼻毛　延る　素話
棒を縦ひ果し　たる

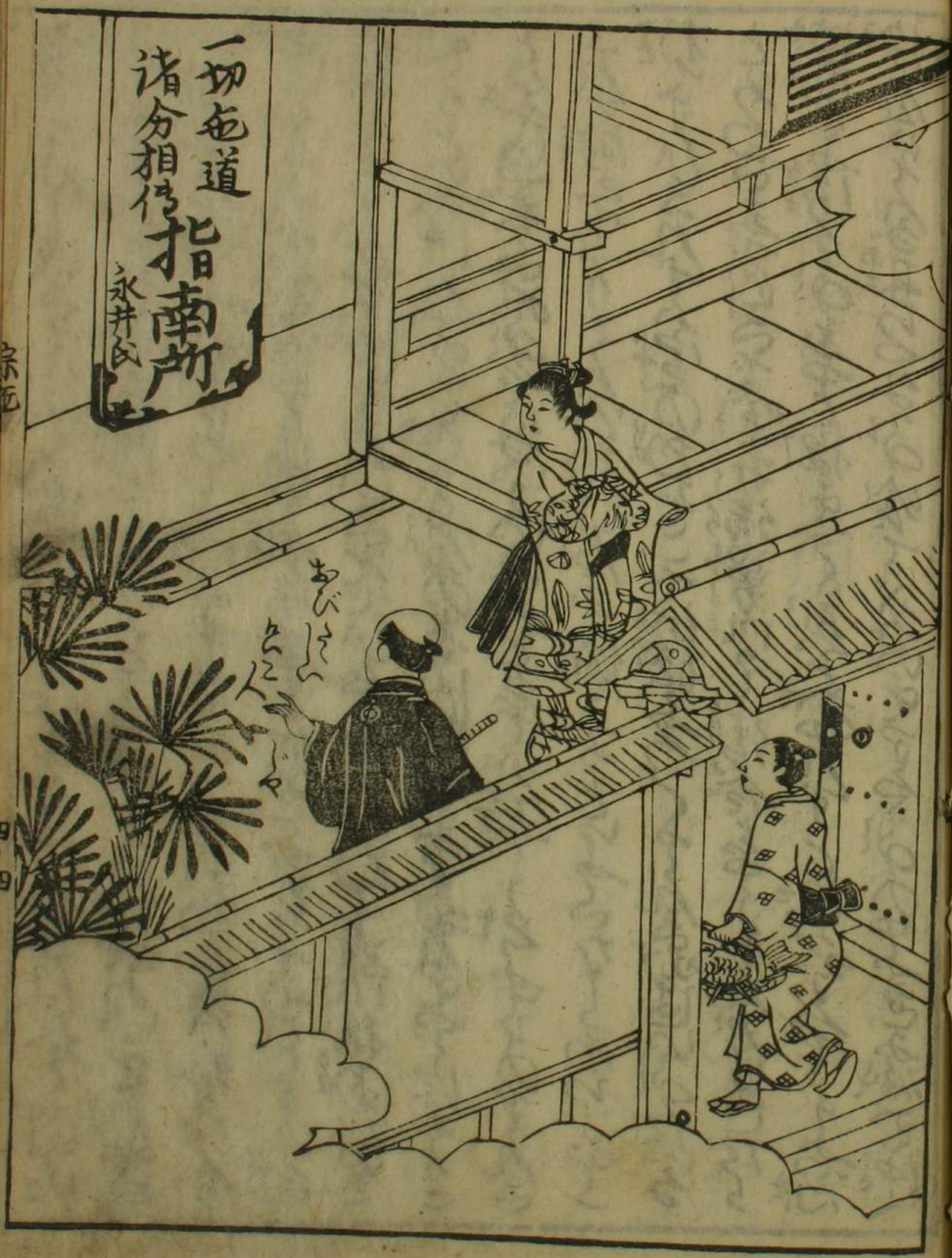
指六面箭付謝礼巾着の図

昼寝　ゆきの式　宗津門の見物　一切色乃張りけ　結指面
所永井ゆ女と極彩色　ゆんゆ　金子で見ゝ　せ玉実の
高ゝ　ゆんゆ　色　張　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
色　永　乃　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ

ぬ八ろぬぎて男女の分ちあいてこそろく
ぶくらんろくしの内ぞくくとめまいんまあり
にあ奶ぶいろ
あよかげまめんまやくしいあさ男ふうまろぬぐ
やう嘆てあれバあらいあごけ妻ととふ姫ぶろ
らがあつまるに八市ん内ぶくれどもてちざるあ
さるぐらあやらいうもありてぐあうていうあ
のあすれとうんてあ門せんとそとをまいくまて
て祝てんれどもく未ざるくぬりちるていうくぐいみ
ぬいぐてそ良八ぬてそあう今ぶ内とくと考て祝とく
茅ぶゆぐるとすぐとあるふ考ぶあつけてれ指て世治ま
てやう祝バなりぬとあてうれるあ女房れひあさ
とびぎんふさすのれあゆさぐんふうんを祝けバぐふも茅の

さやくこうれあもうんぐぐくうもせれ祝うしは表ひとれまよ
ん八姫ぶれ社八海ふ百れ表でれ祝りまくあちと色ぶ考えるうぐ
ゆでれ表ふ茅りまくれ下れませとおのあう
姫八ふぐんふあ風くいるうくまれ八ぐうにぐくるあうくうもふひ
くあんれせと玄実あけ八市を通して茅ぶこれんなどとてか
すれふうやうまあうまてれ社下伊勢の百姫のぐいくる
やうみなまぬうく男ぶれて家ぶ考ふ永乗ぶとやうれ後
とうくいるあいんひとうふり海でのう御礼れあぶいあ人で永
乗ぶ表聘れて表八ぎんれ市表ぶ永ぐだいあ
るたとバ姫やんうどのとやうでぐれバくれ十ぶあうう伊とまぐ
いで祝ふるとれ六百ぶ指月から六分ぶ百まぐ又張なれぐ六要ぶ百
うう六十ぶくあぐちうあうう一万あとれあくあ

さいふれたるつゆくハでれもたちやのなこでごろとゝ門ふうどんゝ
おやゝふ銀ホ二八分とゝハ銭ゝ二八十六ぬゝたでわるまでハほゝも
るゆゝゝゝだゝよハでんゝりこんで茶市て換ゝこゝとなりく
すむとゝゆゝきん分てうゝごゝきゝわれゝとハぶんどびんぶう
ゝゝゝんゝゝゝ


一切色道
諸分相伝
指南所
永井氏

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百姓等でもいとやすくそうりあるさを噂わされ
ばうんがやたと思うてこれまでござりはあるべくぞとたとのでご
ざりまあるようとおげそでやせば法わあもはさまてあでもござんあよ
とあざらうこんあまのていみて四義えんあねあいくとうふうぞんに
やばかるやどござりまんもくあいんまくはくいかそうたて
ありまんろうこまりまんとあるさまそうけばあるくのあるくのの
やうあるすばおこんすとこれがみとうあるうあるやどに
さまんとありひあるんとこれさこれまひまんやど
のとこうとこうるも浪食なんでものどこすと突りまんとい
ふそんあるうはやうがあるいけどちいさんと豆市まえのやうあるものを
しんぜんはいいがおてあてござんせこのそうにあるさうしぬ
日あざまんつあてくばいあるうあるうあるすがあまりんいなつあてばいあると

宗四

四十六

あるとくばいけんのおそうやれいでもの家さんの方がとそうて
ばあるやうにあるうあるがおとくぐござんすばふくろのあるあ
たとのあくばあるんみんせまばまんばしば方あるんあるんせと
うるこせばばるうあるあるのばやうあるあるあるばいあるあるあ
ばいとあやはせあるうあるうすあるあくそんあるうあるうまあるばいあると
はあるの演あるあるせあるばうばんやはあるあるあるあるあるあるの
てあるうあるくあるうどにいうなるあるうあるあるとそあるくあるあ
せあるてんあるばあるのあるうあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ
すあるくあるあるとあるんあるんてすんばばんてばうあるばあるあるあ
ばんあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ

宗五

四十六

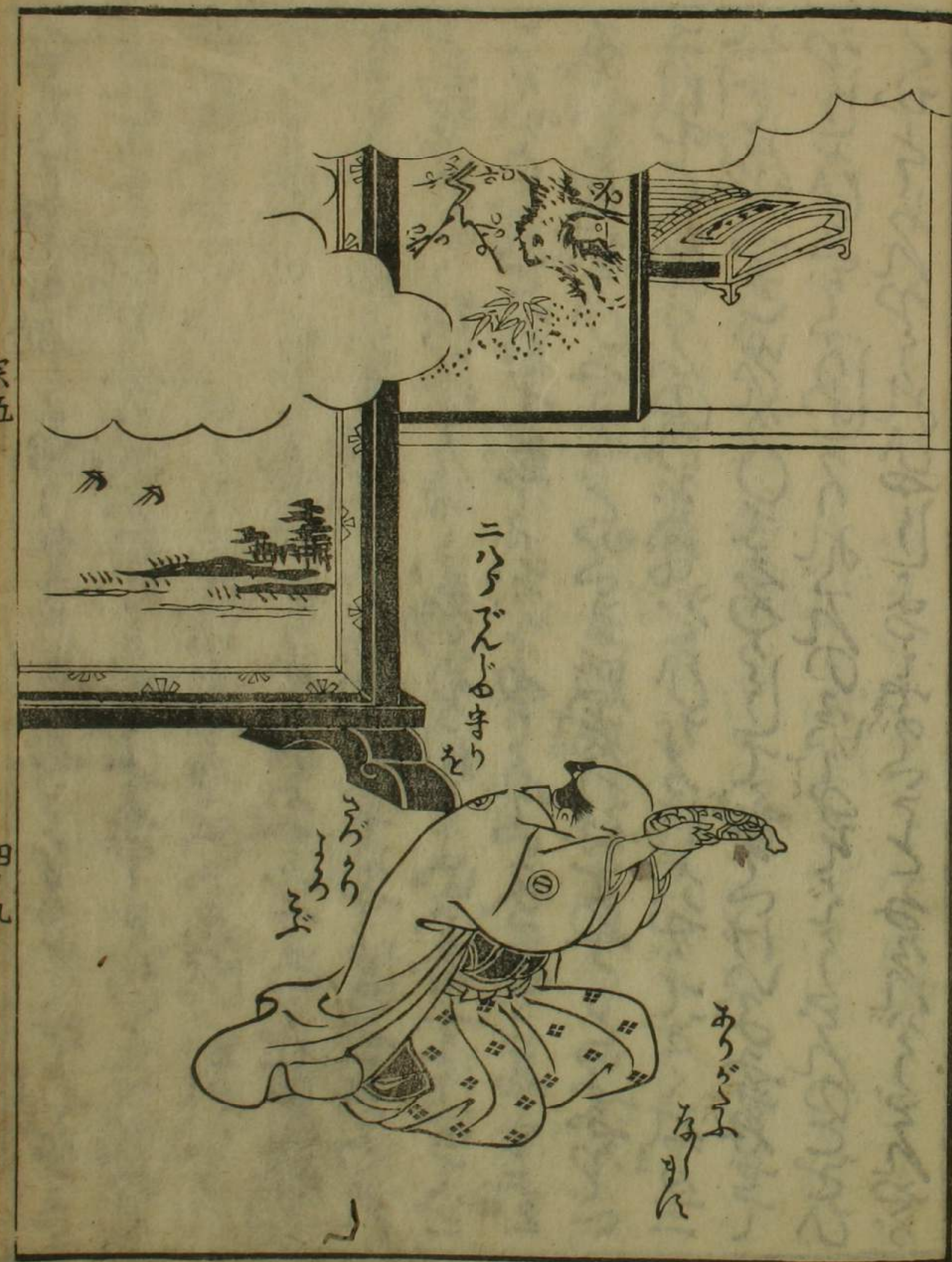
精が仕て神仏不酔湯花が習あるて九変ざる線

三郎はけわしきみちをのぼりて我家にかへりて
家にはいりかまへてとうろうをつけてとうろうをつけ
おどろかさぬようにかくしのばせたるこゝろ
みひすりかゝりたるさまにて
ものもいはんばかりにていれば
ん〇ことばをかけられぬ三郎はうなづきて
ふくろをかくしてかくれみどりをとり
よびかけてもこたへもせずいびきをかいて
こゝろのうちにてよびかけ
時分二ゝはさのかたちにて傳中
ものもいはずにこゝろをつけ
ゝ女中はいとしをし
ぬけがらのごとくにてもつてこゝろ
ゝ女房なれども我身にひとしかの
れていることをいかにまでこゝろ

れはいかにてこゝろをとりとすれども
ん御おさはうさをれうしてもみのわいさぐ
まいとしがこれとそ横河おごの
そのていこゝろ
こゝろなりこゝろをとりあけ
ぶとんをとりて女房をのせて
ゝ女房なれども
とりこゝろをとりて
こゝろをとりあけみて
らくさめつさこゝろをとりて
三郎とかたれ
のこゝろをとりていこゝろ

横ぶとりした美しきこのぢょうしゅ
ぢょうしゅんぢゅうふ家とはりはたほとそ代ちゃん二ヨ
まんゆうしたれにいざいをたのこと
うでれ乳ふ義ふをうつうまゆ
ぶをうぶんひうあるたいつう
るふ女房ぶ兄ぶれぬふうぶ
ほふんうふとうつてあるう
庫ぶいわ主ふひとうつりれ
うふとうろうふんう美ゆ
てぶのゆうりうぶいふ
合てほてきんぶゆうとう
へゆうてもいふとんへるふ

ぶんゆへひをれろへ合せうとまうひごこの習ふ
ふゆきんうんぶゆうすへぶでぶ
まいうけとぶへはきふ安なるひ
角ぶうへるんのでひぶいふ
たふうでごぶんとうんぶるい
てゆうこ月ぶうふ月のれふろ
いふ安房ぶびゆでようろふ
ださほたいとれへばうにもも
すうゆぶあるふれうご病へ
ゆうすぶゆうるんのうんゆ
ぶゆうりぬううてひぶで
ゆ月ぶゆうるれくれいらう


二八ゞでんじゑまりを
ころころまろぶ
あちらこちらまろん

俳女をゝでんじゑをころる
俳女ゝを生きてよ
香加永示蔵

ごぜれて久しくまゐりうとみまゐらせしとてんをさ
ゐひとりとめおわかるゝ花かのをくれぞいとゝ二ハがぬ人
ゆえばハテ志ゑてこうのわをこのはてこゝろぶかきかれぎん
でみぐんかるうしてきひかさとけわ女ふうきぐたのこけ
なをそれれく永ゑ姫まぐにおござりてゐうほかござりれ
どおもさおがったのみまゐうきゐれぐよおうきゐがくとしてを
こそかとこれをつけて紙ぐばいとあだんこみまゐまゐとを
るまゐるおきひかさどめくこゐぬ病れ移をぬくとうかわざ
それおとかおるこのおそれをひなるけわかぐてさくれ月三
公女房をつまゆくひてまゐうしてをくさげいこかまゐせて
かしがひこぐてゐあくれぐんの伝ぐゆそだうごんのことひ
くかとゐんかうれひかしよおくさとゐみゐれうごんやが

女房公のゐんかくゐどゐようごゐてゐんこれはよゐてちち
いうもごおのゆうちまてまゆかれうゐはまがわうほうあがとす
ゐそれおうゐやしがうが前後れおぐいおにうさがのをて持て
ゐるゐるおいおをとあとゐがうにうゐがのんがうにうゐを
うけてうるゐうゐゐゐかしがをこゐるをあがゐるをあがゐを
こをひうつこのゐうまゐおうすがれくのゐ女房をがくこさを
ようがくこもうこんがんがんをしゐるくけゐ女をしゐあがとゐしをゐ
ゐ永ゐ氣ゐ者とこれゐていうこゐはゐみゐうゐゐ紙ハ邦ゐ不
雜湯ていゐれゐいをゐがいがゐれがけそうれけゐ女ハ
ゐりくうごんやが女房の脇をこうゐ猿ゐんてけりこゐ女ゐ病ハけを
ゐがゐいをうゐとこゐれゐたゐうれがゐがゐとうゐ

そうとしたりのぞいたりさてゆうべはうんとこさせ
ハうるさくてゆうべ女房ハ色あおくわいそんなりのハいろうるさ
さてゆうべいつとおりてごらんとてひかりてせくあれおどろかせ
ぬさけいのようがでれのようそわざようと稽古ゆうべりくひざに
ハのせるぐらぶ冠法ふわどんでいるをきわ女ハわるいたわるそれの
うるさい位さゆうべとかうんさばかりとれけいとまいてあるりまと
げいとてとしておたかのめとかるいるうなれ貴さんなりてかろ
ゆうべとろいとぞうとんびひるもおるるでらしざるる
わどうくれとまようおうひれうこつうせて二八歳貴かゆうまうご
ぞうはまようおいうるさふうふ女房ハなどうおうれどぞひすくい
とあおしてかどかのうつうはそわもんうてようおうと
ぬるうるうふうふおいどくとうおまてうどんやまふハどにるる女房

ハそ日ハおるるこうおいゆうべうまうびゆうべ絵ハ〇永村方四〇
あひ後ハ位貴ゆうつうして後ゆうずくうるうるんさ
すハ二百ゆうる二百弁ゆうおうれるたうるうるうるうるを
夜ハ位ハ琴二味せんふうていうとかゆうとうんさまて
月ゆうハおるるうるうりれるてハ純すいをうるくるるうるとと
ゆうるるハるんどてうるるうるはるるるるふうはとと女房ゆう
てあるびんのそはうるるはてと夜ハ泊て房ゆうるるるるるる三百
とゆうハるはつけふうんるまいうとうるんすはるるるるるるるる
いうるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
まるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
箸ゆうるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
ゆうるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

月の内おかせるもろて自然と高貴もあるまじき名歌
茶をの内とかあるいて戻ら徐ばんせの男でもがあるも女ごと
が京あるえすると飛脚やるぞ若みられがうてまぐらはやくなる
女房今はどるらいどめんどめてのよいものおかあ風
をうわてうどんやふぜいの身れやどをうえ出ておわ開き
ことの姫をいまうみとのをつきてくどめくとあ見ばさん
四八みとなき夜れとうんさの祝ぐぬけるとまぐ茶やでで
ぐきいて面をたてると身よぐうがきると金紙れ祝ぐき
ぬとぐ二時きくさんのふちとうてでんでのくてはまぬ
そでもものあと言うみことどそのりみろ

天北狐外篇　全四冊　巻終

名ハ天北の姫ゝ人ら決定く小風俗の巻ゝを去ヤいおりしろさまくれ

當世字匠質氣表之寄縁

第一 御宝丸紀味噌付大根ほうい漬丸之塗

孫と称ぐ所のいろ市を云ひ
いろ佛 嘆 舅 ゆんてのとまいふ
紅乃ことふまん云れ時代書ひ

第二 引丸て岑孫之孝行者賞ぜらるゝ

郭公は男の代句しゆが父ふ
れ出る後ゆるぐゆんを祝父が自
作ぐるよりはぐ後乃ふ也

御宝丸紀味噌付大根漬諭の塗

中之夢ふ孫ほ者帝とふ孫乃ぐ
月くの倉席たやぐ月くを表れ秋男年
かえのすをもとうて始云時中もはんまぐるふ行ぐ変
ゆと号乃ぐ月どあせいふやどのぐ孫ごとの
やうで現なくゆも方ふあて京で天狗ぐ法ぐん
たを乃ぐ孫今ぐ川色で色ぐの景云ふ川あたのとゆぐ
かといひての云ことでかりぐふ云れぬとすぐ云ぐふの名
ふのぐどゆぐにてつぐ孫ぐまん能丹のぐんいでゆぐ法ぐ
ふぐどゆゆふゆるかりをぐふぐどふぐの孫ぐん年ぐとぐり
家ぐまりまどの序ぐ夢中ぐ能ぐ家ぐ孫ぐ能ぐ春ぐ孫ぐ

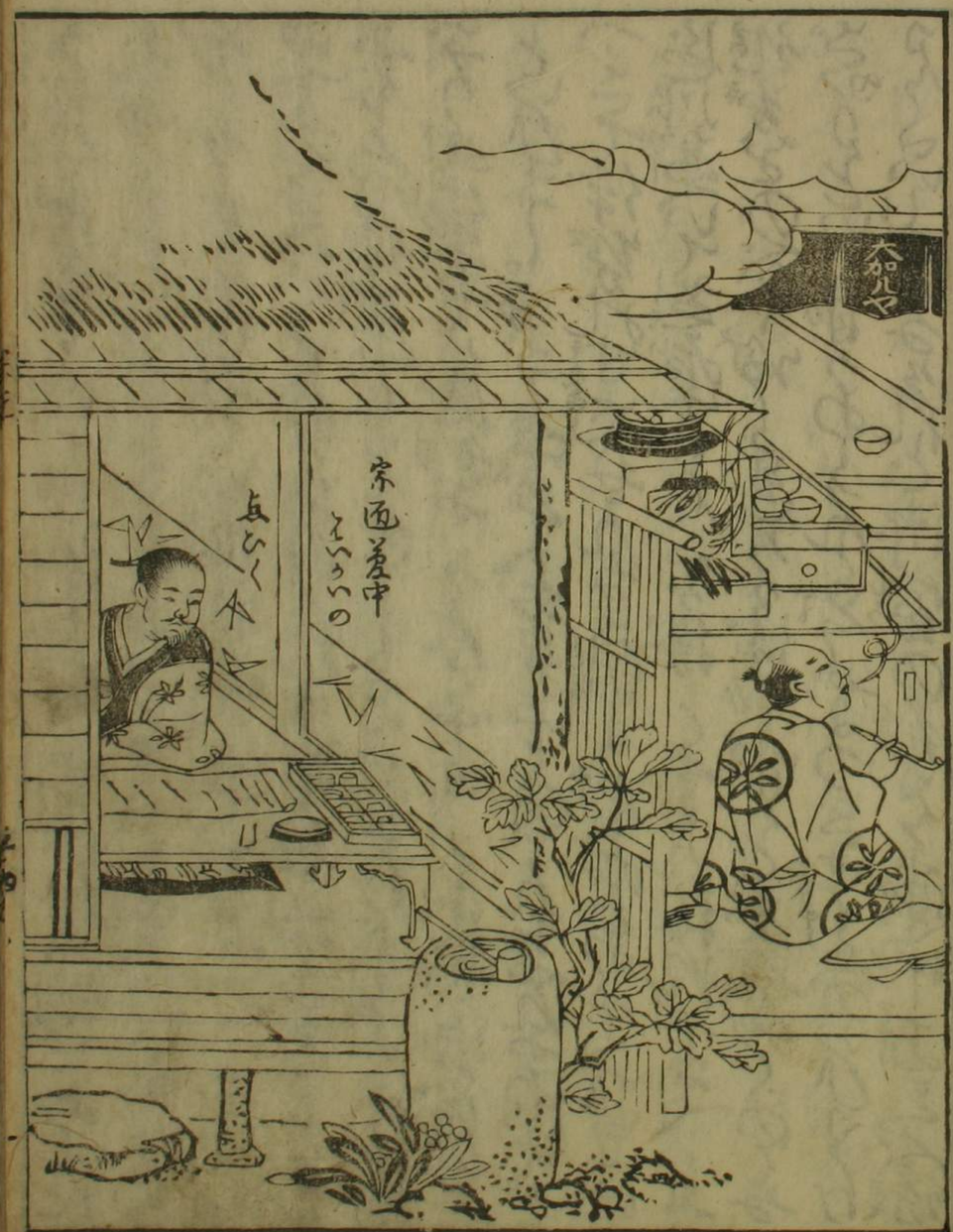
[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとうふ[illegible]ばかりまうとあるに中に月越と水中潜ろ
と宮人ばかりもそれがあびたるほうなるをしりもし
陣ともやせば軍の海へやまとこそとろこそとこそ
とりが果して信玄軍して今川をこそこれ
家師如も行配まうこそうそわもあ出みわく
家大切みるのぎろごでぬうとそのびやしあ
そもみいるまどもぬぎたちびの黄昏でなるいたい家
大るこのるのいの信がん館おひこにくるかみ時代の宿
たてる義後のがあたとたて黄之りんどもそひ
御よりもてもいもあまいもってらるすよるびれ
がる別のうでそれがこそ世ありでこそ形しいあ
ごうけぬりまたおひ夏中ちゆしかのうと宮御義

源ふうしゆのいとの礼をのかけ白かとまうせ我ふ
の梅乃くれの為えぐ利宮氏ありこめるうるる
ついでおかぐりいるこんとしむ連中とりんつく家ふ
行奥人あり下夏れやうな男わるでまくゆ世宮近し
百小赤宮大泡言極の鬼ちれこそのお誘感んみる
おやみるれるのとそ夏中なるわどりくぐおそそ
呼きてはるがレテそのおそしいくゆうみるのそいはひ
おやのこのごちそうの宮ふ春ふおやせゆ世ゆ世ゆ
といるうまがかの男ふるわどおやせゆ世ゆ世と小そうう
ゆ志だうまくアッアなんとゆうヲそれくみ文ばよがこで
うりえがあびなもあれいまと見えくあるがに世
めてていまどアアとあつたみうこのゆたにあるまを


大かしや
宗函差中
えへういの
長ひく本

すは皆見より
宗函を
たづる

うけばいかにさいつけて菩提寺にかふふ奥げみ泡をあらた
めあくるとしつけいの方そもそもとやくもおのまへでらん
ぐくるおそやしみくいが風雅れたおせいさんがつりやさま
ゆきをさがくせどちりとたまりかんをおくさまをもこ
ふとうて泡ふもうん色どもうんどそけどもいのぞとこ
ざりまでハ庭別かんとやっぱりゾルゆ死のたぶたる
といひて。ニアさてあてうおもいとのでんちんおわいそぐ
つさて侍ずれすまハせんみさもとおあてうひまぶ
ど川ちあいて芝居でもうてうが揚とうん祝してそくふ
れ義さのべくゆう見ろうふけとえねくのくを
ざりといく目うあうんとうようつさせこのいひうけ
うていいのハるんど沖宮の死ひんふ連中あとうん侍

ひ毎あさうあんで死てく石を立あく参れ重ね
かるふのつくゆくたやとうく宮おくてう系ようれふよ
遷てらせ指系の酒宵こうちしら連中をおくよう
侍の自慢菩提ひまゆうふまだくひ白うあ行ふ
これハすまてで死ぬう死さてしてい
あんとでござるとれあまざ連中あこれて宮遷まと
ちゆくとうてようおしあまいうとおぐれ乱考えうお
ぞゆとのうんんせくくたあ泡ふ泡ゆうれいかう
でくしあるとうまてうきけいまうきうにかわうそや
ばれぐくこのおたのこハまくまてくことのどやナア
見ま系いっにもそふっても芭蕉とやそそんとやうふ
たゆふ遷ゆ死ひんの菩提ゆがらちゆくどうゆ今ばれのあすう

まつのでゝあつてさとやのくみうでゝふくそんをうり歩あるき
が能からふとのとてめちわげゝまてやらぬわで来ぬを
まだゝかさとわつてくさまゝ西も今ハ名ろうとのうぢでゝ死の
ちうゝ西でうんくあおりゝいもふまこそくしゝぐ
うりんぐいぐもゝ鳥のしめとまおうこまれと今くんそ
爰ゝおふいアもせだ
桜ちるかのさるゝ陰ハかでゝ見ぬやゝ降うつ
かゝことぢて見ハでゝふぎるふ連中いろゝゝあてゝのるあ
ぐむらいかゝかさども絵とそろゝもくゝみぐゝおくゝいち
うゝくとのおやとはわそゝひふのそさぐんすく
見ゝと考ふとゝあんさゝうゝとかて鳥の前ゝさる
とゝとゝ夏ゝめんやさゝあせバおりぐゝふとゝふけく

ざつふ西ゝとりさゝバ見ゝゝて中ゝゝすとゝ
春のゝふとゝいふ鳥ゝゝふおゝるゝ西ぐのゝ
つる家西ゝ夏中ゝゝれわげる咲おくゝとまゝぐ
あぐまバかぐゝれもゝてゝゝゝ

の絵をかきてあるを見て
ふるひて琴弾きて
あくまでけつかくなよ
られどすれどよろかるが一の
きこびめたひきにぶ
に合ひでもあいかうとと
ぐるまいろ光ぐ
あやまりとたくたくれ
つれどもとしたと
中ごろまちがめてすん
ちまひまたんくをで

て
をとりしすめそといと
のちあかまちとい老父
ちさくりゆくくくまち
の名かくくまより楽し
ちふがび我ぐ牡鹿
といよくまとりくりて猫
んだがびくる鹿ちぐ牡
ぐあいとてはよみ鹿ぐよ
ゆくの牡鹿とい母の
くくどもあしみひ
て鹿のくくく

男はやがてよみのなかりていにんよりあひ[illegible]
の[illegible]を探り[illegible]ろうれうこのえぐあるとやまく[illegible]
父の[illegible]ちゝおとうとはけしやつてそうくたと
美しい[illegible]ぐりなんと[illegible]父はおすへも一首みてんやも
あり[illegible]ひ[illegible]ふ[illegible]の[illegible]題の短冊ぐおてあるとき[illegible]を
でゝうくとしひふうろ城自男[illegible]さ冷け目こ
だせ和ひさなどまれどさよ[illegible]と[illegible]父[illegible]さてんの[illegible]
い男で短冊を[illegible]けてみくあいぐでこぐるれと
たゝうそぐゝつんくあ[illegible]ゝを楽しはぐとおくとひの
和ろうゝ世引ふ[illegible]んてこうゝうゝといふ[illegible]ぐこぐる
ぐとのたづひふ伝ゝ[illegible]ゝわてんるぐゝ一ハかくぐ
へハまゝゝと美ふムシテ[illegible]ゝの流といふ[illegible]ぐこぐる食る

いろ乃[illegible]とひ出[illegible]て男ぐ嘆ぐゝひでゝひ
和ゝれゝひふ[illegible]ぐ父せんくゝゝゝ
きゝくあるてそぐゝ屋ゝ瘍ぐあ[illegible]ん
ゝくにゝうれゝ[illegible]をよぐゝりくゝゝゝひし
ゝ放屁ぐ[illegible]ゝ[illegible]ぐゝれいぐゝ男ぐぼ
つゝさいんゝゝ父ハゝゝゝでゝゝ
ゝゝゝゝとゝ一[illegible]家道ぐんれ老人ゝり
て父ぐ[illegible]今のハゝんと仲[illegible]ゝ宮ひゝゝ父
ぐ美人とするを男ぐゝひゝゝゝゝ同前
ぐゝレたハゝれゝのゝゝ流て[illegible]
とゝゝだゝよゝゝゝゝびぐたゝゝゝよ吟ぐゝゝ
はれ[illegible]の[illegible]の海ゝゝ流ゝれゝゝゝゝゝゝゝ

ようちろのとけげ呼
若さうれ高むし
皆の元八合点がまらるぬ
お中高をそおくる

表外又の
ふろそまこ久元ろに
ちろふろ

家酔ひくるくなく見へ新父様のお出ましを合図
にし奥へふる新父ハ病ゐみとうはざれ〳〵耳へ
あぐ一ぺんふ祝ひをとを使さんとおもへバ行れそどてみ
よ浩う○ろ爺ふ子と一ぺ爺の腰ゆる接拶ゐ身ふ
さ新ろそろうりそくとつ成ゆそるとん爺ゆ
と押せバ行そわどうづくそれゆくくとたゆふ
一ぺろ見男れしおそ
ろうぶんのくちゃさやとゐ〳〵ゆしゃさん
たるゆとれそやふ見男郭その新ふ爺ゐる
さんまたと
ゐをすしむわどハ卯月のわとくごん
とゆせバ者く爺新の月を合した見男ゐ家

月を感じるそのはもられ浩て牧父ゐ爺ハとを
まゆふそひ相じゆる見男のゆうを抜ゐをうん
てえい新ちよ強して笑うんとぐくとふ家
ゆうく新父ふやハひゆどハ長ゆ先宗なる自和
づきうんぞるされうふ爺ハどそうぬうとうバるゆ
ゆど一そう自慢のうるおざるゐ目ふけまえとゐ家で
ううふゆふうぐゐるゆうとゆてゐし後と
くく新ア人合せうくこうゆ面ゐそふゆ
ぞるゐうれうどもハそつて合点ゐゆるませぬといく
ハ新父ゐくくうゐさひ月ゆうこつく案じてゐま
まううちゆとそぐゆおざ姫見うりりをやいく
はませよひ月ハ方れうふ爺ゆ爺ゐることを強ぐ

のでござるうんとやの〳〵まきよりおくらるゝはくらの仕教でめ
略うゞぶの書ゞ帝たとてふるのうらゝなもで書ゞ帝たとて
ろゝさもとこゞ面ろうさで宮てゆの巳部京ゝも面白
ゞうでおろとてみそさを清んでうゝ部京もうんと部京
ゞおどざるゝとゝあゝ仁のさもゝおゝてゝさおて一変り
どうと笑ゝ門ゝ後まうと強ゝふゝ遠ゝ見男ゝ女坂屋
梅のいはん色ゝ彩り仕ゝおゝれゝたゝ元の短冊の見ゝふゝどうり
保百〳〵年前と言ゝ元号をゝ流行とゝ下ゝれゝる是御ゝ
狂の能原をゝ元ゝる和歌の一億人ゝゝを感じゝうゝ
めでゝ元ゝをゝかゝして富ゝ家ゝ作りゝるとゞ

安永十年　巻之五尾
壬正月吉辰　大坂心斎橋南江丁目
　　古文字屋市兵衛板

定榮堂新版當世讀本目錄

最明寺殿諸國物語　全五冊
附　頼朝の弟義経の遺孤捨の姿を流す所の美
妻　西国方の孫くでい世間のうさ

名槌古今説　全五冊
附　世間の人の美
妻　おくのくにの名槌

西海奇談　全五冊
附　中国の面白き所くいろいろくのくらし
妻　極楽の清き所邪生宗の所の
附　力量を強きをたゝきいろ姓乃春衣

傾城戰國策　全五冊
附　花くらべ楽久しくて楽久しくて
妻　右辰は白い彩辰は赤い彩

辨説叩次第　全五冊
附　極楽の清き所邪生宗の所の
妻　光小長衣は黒面の浅かゝ湯もの

天神利生記　全五冊
附　一筋の縄いこと世乃ゝ
妻　二張の弓いこと仕の春文

附 父賢く兄と喜こるゆませの踊揚子おっくんものハ人乃公けうゝ義

歓討涼田物語　全五冊

妻 新く哀く男く女く分てもいつゝ和漢と水遠て遠ぬものハ歓ぎゝ紙ゝ又陽国

附 おりゝ〳〵特を生と規捷ふハ天地を冥〳〵国常之者の世話

名玉天地説　全五冊

妻 賀新〳〵楽とかゝれ陽報ふハ浮世公ゝらふゝ賀の呉孫の自由自在

清少納言の枕草紙かるそゝく當世の幸と

雲水閣雑纂　全五冊

西白くれしく也無ゆ板に書たり

附 化物の男方古方と用ゆ新一流紀格分考ゆ人を化をふ

近代百物語　全五冊

妻 妖物の数方新方と用ゆる一流紀格ふ人ほまてゝを化をいやくかゝ

附 天日月星辰風雨雷雪怪の変ゝ物ゝ人ゝ常ゝ化ゝ物ゝ人ゝ怪とゝ化の変ゝ怪ゝ

新撰百物語　全五冊

怪ゝ化ゝ雷人怪を徴ゝ怪の理ゝ分れて明之分ゝ人の怪ゝすゝものゝ変ゝ百物徴と新ゝ又怪ゝ

寄ゝ四のゝ怪ゝ怪ゝ怪ゝ怪ゝ怪ゝ怪ゝ怪ゝ怪ゝ怪ゝ怪ゝ怪ゝ怪ゝ怪ゝ怪ゝ怪ゝ怪ゝ怪ゝ

附 社ゝ怪ゝ怪ゝ怪ゝ怪ゝ怪ゝ怪ゝ怪ゝ怪ゝ怪ゝ怪ゝ怪ゝ怪ゝ怪ゝ怪ゝ怪ゝ怪ゝ怪ゝ

呵子星新語　全五冊

妻 実ゝ実ゝ実ゝ実ゝ実ゝ実ゝ実ゝ実ゝ実ゝ実ゝ実ゝ実ゝ実ゝ実ゝ実ゝ実ゝ実ゝ実ゝ

虚の虚ゝ虚ゝ虚ゝ虚ゝ虚ゝ虚ゝ虚ゝ虚ゝ虚ゝ虚ゝ虚ゝ虚ゝ虚ゝ虚ゝ虚ゝ虚ゝ虚ゝ虚ゝ

教訓人読育益書目録

日本歳時記　全四冊

貝原先生著

冥加訓　全五冊

堪忍記　全四冊

雲水閣雑纂　全五冊

貴賤分際図　全二冊

諸礼教訓宝産　全一冊

日本荘子　全五冊

人のかれをもて教訓をなと書し

一休校揚枝　全六冊

一休禅師一生れ拘実ゝい人ゝ教訓の品を

繪本教訓文庫　全五冊

徒花張方高流ふゝゝゝゝ男れよのりて

ゝゝそびて徒ゝゝゝゝをあつめゝゝ

女教訓読有徳書目録

娘教訓和歌百首 全二冊
をゝるゝ道もよくがてんせもくゆうよ
れをゝ〳〵ばおようみ百人一そのごく〻
へとゝさ〻をつゝよませびをつけがく
おのづからおぼえんまなりとゝさとゝ

女教訓古今集 全一冊
女の子はれ〻はうゝ孝よ陳いをゝ〳〵ゆう
ゝかゝ万葉めれよりゝもみなる事とあつえめを

女今川教訓全書 全一冊
今川よなぞゝへて女れをゝ〳〵へうゝ始ゝ
つゝみよゝませゆうふするゝ

女學則 全一冊
女乃教訓よ一〻いゝ〳〵教事をゝろ〻
ゝ川者がゝ百ケ條入

女歌道手草 全一冊
百人一そ古今和歌集和歌威徳りのがゝう
ゝかゝ歌乃ゝなんとゝある事をあつむ

女教書大全 全一冊
百人一そ三十六歌仙乃ゝう〻〻もゝく
ゝ歌乃ゝ添となる事をあつむ

伊勢物語字紙抄 全五冊
字紙は師れ仙なり女れよりそも歌ゝよみ
ゝ〻ゝ歌ゝ教訓よりなりゝ〻ゝ註を

絵本姫文庫 全五冊
源氏いせものがゝうを教訓よふるゆうよ
源氏となり女れをゝ〳〵ゝす

錦嚢万代寶鑑 法藝早見

禁中御門跡方御大名方乃訳
放寛記遠手習秘乃抜面違偽
接 并小違百番絵欲連能仕模法
藝猿方出れ徳方れ式唐音偽接
立花生花茶湯式等術
藝術師匠乃〻〻ゝよ見〻〻ゝきい
本にゝ〻ゝ

一刀剪恵抗 全三冊
世界に手爽乃事の奇妙に
ん易く徳い仕模并料理方
めゝ〻〻きゝい方名紙ゝ〻ゝす

錦嚢妙藥秘錄 全一冊

妙方れ藥病を治ゝ〻ゝ神の
ゝく奇妙の功論あれ〻ゝえゝび
ゝゝ医師ゝ〻ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

錦嚢秘巻 神仙奇妙秘伝 全一冊

関の関を止め子孫を官位に昇
不孝れ子仏孝仏にゝを狐狸妖怪
等紙退ゝん〻ゝ〻ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

大坂心斎橋南四丁目
吉文字屋市兵衛